

業種別下請関連企業の 現況と見通し



(4月19日現在)

業種加工内容	ポイント	現況	見通し
 【繊維・繊維製品】	<p>今期 平成14年1月～3月 利益が「増加した」が23%、「変わらない」が38%で、ともに全業種中最多である。量産は海外、特に中国へのシフトがすでに既定の事実となっており、試作・手直し等、量産を前提としない生産体制を確立した企業が比較的好調である。なお、ニットは5月いっぱいまで多忙となっている。</p>	 <p>悪い</p>	 <p>悪い</p>
 【合成樹脂製品】	<p>88%の企業が「操業度100%未満」(「80%未満」及び「80%超100%未満」の合算)としており、生産水準は低調である。特に、今期は某大手企業の撤退に伴う受注減を指摘する企業がいくつか見られた。金型の引き合いが増えてきたとする意見もあるが、海外で使用する型の製作(売り型)など、量産に結びつかない案件が多い。</p>	 <p>かなり悪い</p>	 <p>かなり悪い</p>
 【鑄造】	<p>「操業度80%未満」が56%、「業界全体が下向き」も88%で全業種中最多となっている。 県内の企業について「価格が高い」と指摘する発注企業も少なくなく、加工コストのいっそうの引下げが業界全体の課題となっている。</p>	 <p>かなり悪い</p>	 <p>かなり悪い</p>
 【鉄骨・製缶】	<p>「売上が増加した」及び「操業度120%以上」が全業種中最多であるが、それぞれ11%、6%とごく一部の企業にとどまっている。さらに、この忙しさも公共工事が年度末に集中する季節要因による一時的な現象ととらえることもでき、春以降も持続するかどうかは微妙である。</p>	 <p>悪い</p>	 <p>かなり悪い</p>
 【機械加工】	<p>「売上が減少した」が96%、「利益が減少した」が93%で全業種中最多であり、売上、利益の両面で厳しい状況にある。 半導体関連に回復の兆しが見えてきたほか、自動車関連は比較的浮き沈みが少ないが、それでも取引先の好・不調に大きく影響されるとする企業が多い。</p>	 <p>かなり悪い</p>	 <p>悪い</p>
 【プレス・金型】	<p>「受注単価が値下りした」が79%で全業種中最多となっている。金型に動きが出てきたとする企業も少なくないが、合成樹脂製品と同様売り型の受注が多く、従来、プレス加工とセットで受注してきた企業にとっては依然として厳しい状況となっている。</p>	 <p>かなり悪い</p>	 <p>悪い</p>
 【金属製品】	<p>表面処理の企業を中心として「半導体関連は底を打ったのではない」とする意見がいくつか見られたが、大半の企業は依然として厳しい状態が続いている。精密板金は組配まで一括して発注したいという企業が増えており、単なる加工にとどまらず、ユニットで受注できる企業に受注が集中する傾向にある。</p>	 <p>かなり悪い</p>	 <p>悪い</p>
 【組立】	<p>業況感について「わからない」が19%もあり、先行きに不安を感じている企業が多い。すでに単純なハンドワークの大部分は海外へシフトしており、今後いっそう企業の淘汰が進むものと見られる。実際に、受注量の減少により休業状態に追い込まれている企業も少なくない。</p>	 <p>かなり悪い</p>	 <p>かなり悪い</p>

天気図は、「下請中小企業経営動向調査」結果並びに下請取引あっせん業務の窓口から見た生産状況、収益性を総合的にとらえたものです。
『精密板金』表面処理については『金属製品』に取りまとめています。

お問合わせ先 取引支援課 TEL 019-621-5385 FAX 019-624-5480
URL <http://www.joho-iwate.or.jp/torihiki/> E-mail sitauke@joho-iwate.or.jp